教授の呟き

第3回

情報化は、考える力を育むか

東京商船大学教授　苦瀬博仁

ＩＴ化が引き起こすもの

2000年の流行語大賞に選ばれたことからも分かるように、ＩＴ革命という言葉は21世紀にまたがるキーワードとして注目された。ＩＴ（Information Technology）には、情報処理技術と情報通信技術の融合という意味があり、インターネットなどが話題になっている。

ＩＴ化の歴史的な意味については、大きく分けて二つの考え方がある。一つは公文俊平[1]やアルヴィン・トフラーの第三の波に代表される「ＩＴ革命論」であり、もう一つは中西輝政[2]などが指摘する「単なる技術進歩論」である。

おそらく正解は、両論を含めた幅の中に存在するのだろう。人間の文化や社会の特徴、さらには宗教観や倫理観にもとづく行動が、単にＩＴ化という技術変化だけで大きく変化するとは言い切れないかもしれない。しかし逆に、ＩＴがわれわれの生活様式や経済活動を変化させていくならば、ロジスティクスも確実に変化していくはずである。

ロジスティクスと情報化

ＩＴ化が革命なのか単なる技術進歩なのかは後世の審判を仰ぐとしても、現代を生きるわれわれはＩＴを受け止め、取り入れていかざるを得ない。

国家、企業、国民という三つの視点から、ロジスティクスの情報化を考えてみたい。貿易国家としてのわが国が国際競争力のある物流システムを構築するためには、円滑な情報の流通を支える情報インフラの整備と制度の充実が重要である。また企業間や企業内部門間においては、物資識別情報や輸送単位情報などの情報共有を含め、情報システムの連携が望まれている。そして国民生活の安定と向上のためには、商品や製品の円滑な供給と適切な品質管理を可能とする情報化が必要だろう。

分析力がついていかない

一方で、情報化の影の部分も目につくようになった。

今でも、ときおり学生に見せて驚かせては悦に入っているのだが、約30年前の電卓を大事にとっておいてある。「12桁、１独立メモリー、四捨五入機能、ルート付き」という製品で、今なら500円でも買えそうな代物だが、当時は３万円くらいした。貧乏学生にとっては高価なものだったので、買うまでに逡巡した記憶がある。

もちろんパソコンなどない時代だったから、表の集計もやっと手にした電卓で何度も確認し、計算ミスがないように工夫もした。グラフを描くときは、手戻りのないように指標を慎重に選び、方眼紙にプロットしながら数値の意味を考えた。つまり無駄な仕事を避けるために、作業の前後でそれなりに考えを巡らせたのである。

ところが最近は仕事が粗雑になってしまうことがある。なにしろパソコン上で指標をセットさえすれば、

あとはいくらでも図表をプリントしてくれる。瞬時に何枚ものグラフが出来上がるために、時間をかけてグラフを見つめることが少なくなったと感じる。

恥ずかしい話だが、図表作成という情報処理の高速化に対して、分析方法を整理したり分析結果を考察し判断する能力が追いつかないのである。加えてプレゼンテーションの技巧にばかり気を取られてしまう。しかしこれは、筆者だけのことなのだろうか。

考察力の衰えが心配

だれしもが認めるように、作業の迅速化と物流品質の高度化のためには、情報収集と情報処理の速度を高めるロジスティクスの情報化は不可欠である。ルーティンワークとしてのデータ分析の高速化も必要だろう。これらが、われわれを繁雑な仕事から解放し、かつ正確さや確実性を保証してくれることは間違いないだろう。

一方で、分析の目的が不明確なままであれば、良いアイデアも浮かばない。いくら作表ソフトが美しい図表を提供してくれても、洞察力を育んでくれるとは限らない。まして、分析のための統計技術や解析力を身につけておかなければ、データの山に埋もれることにもなりかねない。

インターネットをはじめとするＩＴに慣れ親しむこととは別に、情報化のメリットを活かすためにも、論理的な思考力を身につける努力が、以前にも増して重要だと思うのである。特に日ごろ、インターネット世代の学生と接していると、ＩＴ化により考察力が衰えていないかと心配になる。

（１）公文俊平：「文明の進化と情報化」、ＮＴＴ出版、pp42-58、2001
（２）江口克彦編：「日本・百年の進路」、pp35-40、中西輝政、まず「国家観」を回復せよ、ＰＨＰ研究所、2001

Profile

東京商船大学　流通情報工学課程
流通管理工学講座　教授
苦瀬博仁

（くせ　ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。94年から95年の１年間、フィリピン大学客員教授を務める。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通一都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）